



# おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

## プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）  
東京で大学・研究室生活を経てUターン  
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる  
心理学・新潟学等講師  
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）  
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

## 「ちょしてぼっこした話」

はっきりいって典型的なアナログ人間の私は、機械が嫌いです。というより、機械の類と相性がよろしくありません。特に精密機器の電化製品との相性はなほだよろしくなくて、家電製品の店に行くときくらくらして、電磁波のせい、騒音のせい、落ち着かなくなりあんばい悪く（気分が悪く）なってしまいます。ですから、よっぽどでない（よほどでない）限り家電製品の売り場には近づかないようにしております。やむを得ず、通らなくてはいけない場合は、「えんがちょ」（新潟のことばでまじないの意味。たとえば、親指をかくす、とか手を握り締めるなどのノンバーバルなサイン。葬儀の家の前を通るときに災いがこちらに及ばないようにする）して、なるだけ（なるべく）息をしないで、ちゃっちょと（さっさと）足早に通り返るようになっています。

現にこの原稿も、本当は原稿用紙に2Bの鉛筆で書きたいところを我慢して、やでもか（むりやり）パソコン入力しています。そのパソコンですが、ある日突然、買って一年ちょっとなのに、ネットもメールもだんまり虫を決め込みました。締切はある、急ぎの用事はメールでくる、あきやきや、どうしょば、（困った）あべこべならない（どうしようもない）状態で、ああでもない、こうでもない、あの手この手を使い、人を使い、通信機器を使い、マニュアルと保証書を引っ張り出し、電話で遠隔操作で確かめ、ケーブルをつなぎ、無線ランを調べ、PC修理店にかけこむわ、家電店に行くわ、の大騒ぎをしました。結局「餅は餅屋、ついでに餅は新潟 切り餅出荷高全国NO.1」、親切で確かなプロに巡り合い解決したのですが、プロにたどりつくまでに1週間、私を含めて、いろんなしょ（人）が、我がパソコンにあんげこと、こんげことをいっぺこと

（たくさん）やってみて、まさに「ちょしぼっこす」状態になっていたのです。子供のころから、とんとき（おっちょこちょい、まぬけという意味）な私は「がっとなにとぼっこすぞ！」と言われながら、実験機器やタイプライターやワープロやマシンやマリンバを、力加減が分からず、がっとなに（力任せに）扱い、ちょしすぎて（いじりすぎて）ぼっこし（壊し）続けてきたのです。

さて、このがっとなにとぼっこすも、新潟（特に下越・中越の一部）を代表する方言ですが、その響きと言い、発音と言い、そのものの状態を的確に表した言葉だと思います。新潟弁というよりも、なんとなく異国の言葉にも思えてきてしかもか（かなり）面白くてインパクトある表現です。ぼっこすは、ぶち壊すが転じて「ぼっこす」になったので、新潟以外の人でも理解できますが、がっとなにとぼっこすとなると、まさに外国語の感があります。ちょすは、北海道でも使われていますが、新潟の場合は、ちょこっと触る感じや余計な手出しの際にも使います。また、がっとなは、サッカーのサポーターが「いけー！がっとなに蹴れ！」、野球場では「がっとな球投げろー！」と、スポーツの応援用語として新潟では耳にすることがあり、がっとなにするのも時には必要です。

とはいえ、日常は何事もほどほどに、あまり余計ながっとなことはしないで、ちょしぼっこさないようにしようと無事復旧したパソコンに誓いました。

